

なぜ、龍なのか？ 街路灯に龍？どうしてだろう？

東町のまちづくりのテーマ
「祭(いのり)のまち」

東町の4つのデザインモチーフ
水 龍 コスモロジー 御幣(四たれ)

「いのり」を叶える神・旅人を見守る神

龍は天に人々の願いを伝え、人々の夢や願いを叶えるためにおりてきてくれるという謂われがある。

- ・東照宮のシンボル
- ・神橋は「蛇橋」
- ・東町の至るところに見られるデザイン
- ・水・滝との強い関係性



そして、歩道にも…



これは「日光東町まちづくり規範」作成時に提案されたものです。行政と住民が実に50回を超える話し合いを重ねた成果です。

そして、歩道にもいのりと願いが込められています。

オリオン座の盤が設置されているのはご存じでしょうか？実はこんな理由があるのです。

日光は、風水思想を超えた神秘の逸話がある。

日光東照宮の配置は、滝尾神社、外山、釈迦堂、本宮等で「オリオン座」を形成し、これらと関連して、女峰山、赤薙山、丸山等で「北斗七星」を形成する。また、男体山は「北極星」に見立てることができ、さらに、中禅寺湖に点在する、二荒山中宮祠、華厳の滝、立木観音、旧五大尊岩が「くちょう座」を形成するという。

家康の霊廟を日光に移した天海大僧正は、この日光の山々の壮大なコスモロジーを意識していたと言われる。(中略)



©2009 Google

こうした風水に基づく思想は、基本的に1,200年前の勝道上人の宇宙観と同じと言われる。

▲「日光山小史」山本忠史氏著より

オリオン座は、昔の日本では太鼓(つつみ)の形になぞって「鼓星」と呼ばれたそうで「祭(いのり)のまち」に入ることを音で神仏に知らせる意味で入口である松原町に配されました。

また、鳥居の形をしていることから、入口・ゲートの役割のある松原町に配されました。

これらは、日光らしさを表現する大切な構造物になります。地域みんなで大切に受け継いでいきましょう。

ホームページとブログはこちら▼

ホームページ→ <http://www.npo-nikko.jp/>
 ブログ→ <http://www.npo-nikko.jp/blog>